

平成22年度

専門学校 静岡工科自動車大学校

学校評価書（学校関係者評価）



専門学校 静岡工科自動車大学校 校長 平井 一史

静岡工科自動車大学校評価委員会 委員長 永田 多孝

基準 1 教育理念・ビジョン・将来構想等

評価項目		具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
1-1	理念・ビジョン・将来構想等は定められているか	理念・ビジョン・将来構想等などが、明確に定められており日常の活動を通じて着実に成果を挙げていると理解している。	4	教育理念は教職員に浸透しており改善の必要性は感じない。将来構想については、中期経営計画を定め職員に周知している。	中期経営計画を策定し、P-D-C-A のサイクルが確立されているようなので特に問題は無いと感じる。
1-2	学校の特色はなにか	豊富な種類の教材によりメーカー校との差別化を強調している。結果として入学希望者は減少しているが定員確保はほぼ満たしている。	3	今後は教育指導における特色を模索し構築したい。	地域に根付いた教育活動を行っており、全メーカー対応の整備教育が特徴であり、かつ一級や研究科の学科も充実しているので、明確な特色があると思う。学校の特色を如何にして周知していくかが課題である。特色はあると思うので自信を持って教育活動に取り組んでいただきたい。
1-3	学校の将来構想を抱いているか	中期経営計画の策定にはプロジェクトを立ち上げ企画・立案を行ってきたので多くの意見が集約され独裁的要素が薄いので教職員に浸透しやすく、ここまでは順調に推移している。	4	職員研修等による職員間の積極的な意見交換により定期的な見直しを実施していきたい。	1-1に同じ。

5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

理念、ビジョンが大きく変化することはないが、学校としての教育方針を常に見直し、時代にマッチした人材が輩出できるよう努力したい。

学校の特色については、一部のメーカーに偏らないことが特色であることをあらためて再確認できたので、現在の学校としてのスタイルを自信を持って推進したい。また、学校の特色を社会に周知する対策を講じたい。

基準 2 学校運営

評価項目		具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
2-4	運営方針は定められているか	学校の目的、目標に基づいた学校運営方針は明確に定められている。それを基に各課の目標方針が作成され全職員に認識され日々の活動の機軸となっている。運用についてもスムーズに展開できている。	4.3	特に改善の必要性を感じていない。	現場の意見を吸い上げた運営方針となっていれば特に問題はない。
2-5	事業計画は定められているか	学校の目的、目標を達成するための事業計画は毎年次年度の当初予算作成時に併せて作成している。ほぼ計画どおりに実行してきたが実施時期については諸事情により変更されることがあった。	4.5	経営環境の変化により実施を見直すことや時期がずれることがあるが、先見性を磨き精度の高い事業計画としていきたい。	中期経営計画を基に毎年度の事業計画が定められているので問題はないと思う。
2-6	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	運営組織図は機能している。年度初めに詳細に説明し特に各リーダーについてはその職責の重要性も説明している。各分掌とも改善等にも前向きであり成果も挙げている。また、毎年自己申告書の記述を参考に適材適所に配置し成長を期待している。	4.7	意思決定機機能は階層により承認を得る稟議制を採用しているが、稟議書の改善したり電子メール等を活用し、さらに効率的なものとしていきたい。	特になし。
2-7	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	学校運営のための人事や賃金での処遇に関する制度はほぼ整備されているが運用面については多少の不安を持っている教職員もいる。これは数年前に新人事制度に移行したためであり、馴染むにはまだ数年は掛かる。	4.3	人事考課制度は確立してるが、運用面での改善は必要であると考え。採用に関しては長期的な学校運営を考慮するよう心がけたい。	特になし。
2-8	意思決定システムは確立されているか	意思決定システムは一部不具合はあるがほぼ確立されている。	4.3	意思決定や日常業務において階層を理解しつつ組織としての行動が伴わない者が若干いる。これはOJTで解決できる課題であるので早急に解決したい。	クラス運営などでは各担任の特色は大いに出していただきたいが、一般企業同様、報告・連絡・相談を徹底し、実行して欲しい。

2-9	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	当校では学務システムという名称で教務・総務・広報・学生の管理を行っており効率的な運用を行っている。	4	このシステムは10年ほど前のものを改良。修正で行ってきたのでそろそろ限界に来ている。次年度より新システムの検討に入り2年後には新システムの導入により、更に効率的な運用を図って行きたい	平成23年度に新システムを開発するようなので、問題は無いと思う。
-----	---------------------------	---	---	---	----------------------------------

5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

学校の目的、目標に基づいた学校運営方針は明確に定められており、それを基に各課の目標方針が作成されている。さらに職員個人の業績目標へトップの意思が下達され人事考課に反映されるシステムが確立されているので、このシステムをさらに改善し学校運営を行っていきたい。

基準 3 教育活動

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見	
3-10	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	各学科の教育目標、育成人材像については学生便覧に明示し、その目標に向かって日々人材育成に努めている。整備士試験の成績は毎年高い合格率を達成しており、企業ニーズに応えている。また、すべての科においてインターンシップを実施しており、企業からの情報を収集し授業に反映させている。	4	企業ニーズとしてHV、EVや高度故障診断技術を習得した人材の需要が高まっているため、一級整備士の合格率を向上させるよう改善をしていきたい。	大型整備の現場ニーズとしてディーゼルエンジンのコモンレールの外部診断機を使った整備ができることも必要であるので、学校教育にも取り入れていただきたい。 また、コミュニケーション能力向上の対策として、1分間スピーチなどを実施しているようであるが、新聞などの時事問題に関するテーマを設定し人前でも話ができるようなトレーニングも検討して欲しい。
3-11	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	知識、技術についてはカリキュラムの時間内である程度、業界の求めるレベルには到達することが出来る。しかし自動車技術の進化速度が速く、学校教育と業界の求める整備士技術との差が出てきている。常にカリキュラムを見直し、内容を検討する必要がある。	3	2年間で人間性まで向上させていくには時間が不足するため、未熟な学生については研究科進学などの在籍期間の延長を促進したい。	学校としての標準的な育成人材像をマーケティングの観点からモデルを設定することが必要であると感じる。 その育成モデルを全職員が共通意識を持ち教育活動を行うことが大切であるので、検討をお願いしたい。
3-12	カリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の目標達成に向けカリキュラムが構成されている。国土交通省が監督官庁であるため指定基準が決められており、ある程度の制約を受けるが基準内で不定期ではあるがカリキュラムを見直し、業界との格差が発生しないようにしている。	4.3	平成24年度にカリキュラムを変更するため、現在内容の精査を行っている。	教科書が改訂された場合における教育時間には特に対応していないとのことであるが、対応できるようであればお願いしたい、

3-13	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	カリキュラムは不定期ではあるが教務担当者見直しをカリキュラム検討委員会にて検討を行っており、必要であれば変更している。各科目はカリキュラムの中で適正な位置付けにあると認識している。講義・実習内容は科目によりコマ数に対する量の問題があり、毎年内容の調整をしている。	4	毎年シラバスの作成を行い、内容を精度の高いものに改訂しているが、学生への周知がなされていないので、周知の方法を早急に検討したい。	就職内定先に必要な技術・知識を習得するコース制のカリキュラムなどの学科が設定できればより企業ニーズに近付くと思うので検討をお願いしたい。
3-14	授業評価の実施・評価体制はあるか	平成 17 年から授業評価を実施しており、評価結果については職員会議の中で発表するとともに詳細についてはパソコンで閲覧できる体制となっている。個人評価データについては公表はせず、2 回／年の職員面接の中で活用している。	3	授業評価の項目については改善の余地がある。授業内容が正当な評価となるような調査項目としていきたい。	特になし
3-15	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	整備専門学校は第一種養成施設の指定基準に準拠する必要があるため資格(整備士資格)、整備経験年数及び学歴等を満たした教員採用している。また一級未取得職員に対しては、取得済み職員が教育を行うなど教員として必要な指導を実施している。	2.8	基準は満たしているものの実務経験(現場経験)の少ない教員の授業評価が低く教授力育成が今後の課題となる。研修等にも積極的に参加し技術力の向上に努めたい。	教員資質の向上は教育活動を行う上でも必要なことであるので、教職員も向上心を持って資質向上に取り組み教育活動に反映させていただきたい。
3-16	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価基準は学校側の主導により明確に定めてあり、その基準に従い教員、非常勤講師は成績評価をしている。また学生には学生便覧(教務規定掲載)、を全員に配布し周知徹底している。	4	特に課題を感じていない。	特になし
3-17	資格取得の指導体制はあるか	整備士資格以外はカリキュラム上には定められおらず、放課後等の時間外を利用し、資格取得のサポートをしている。必須資格と選択資格に分け学生の能力・ニーズにより選択できる体制をとっている。	3	資格取得に対する学生への意識付けを強化していきたい。	時間的な制限があるが、企業にとって必要な資格を取得できるようお願いしたい。

3-18	生涯学習に対して積極的に取り組んでいるか	中学生職場体験事業所に登録し、積極的な受入（H22実績23名）をしている。	3	実績のある幾つかの講座を基に、本校としての生涯学習をどう展開するかを検討し、受け入れる体制作りが必要である。	HV、EVの構造やマイカー点検など、学校の施設を利用した公開講座などはニーズもあると思うので、前向きに検討をお願いしたい。
3-19	附帯教育事業に対する取り組みの組織・体制は明確になっているか	付帯事業は学生課（社会人講座）の部署が企画し教務課が担当する。資格を取得する講座のため日程及び内容は基準に従ったものになり、受講生の成績評価も行う。また、実績については書式どおりに作成し報告している。	4	特に課題を感じることは無いが、さらに学校の資源を生かした講座の提案を行いたい。	特になし

5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え
 教育活動においては、企業ニーズを反映させるようカリキュラムを常に検討していきたい。またコミュニケーション能力を向上させる方策として、人前で話をする機会を多く設けるなど、教育活動に反映させたいと考える。
 学校が考える育成人材像について明確な人物像が確立できていないので早急に検討し、職員が共通意識を持って教育活動を行うようにしたい。

基準 4 教育成果

評価項目		具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
4-20	学生の就職に関する目標を達成したか	学校に対し求職票を提出した学生を対象に就職斡旋を行っている。 就職を希望する学生の中には自己就職または自家就業する者もあり、学生課としてはクラス担任に管理をさせている。また、そのような学生の中で途中から学校斡旋に切り替える学生もあるが、学生からの依頼があれば就職活動の支援を行う。	5	留学生の就職については受け入れ先が限られているため、さらに積極的に求人確保に努めたい。	就職先の選定に関して、対象学生の参考となる卒業生の話が聞けるような機会を設定して欲しい。
4-21	資格取得に関する目標を達成したか	学校生活のなかで、年間を通してそれぞれの資格対策において、教職員はもとより、学生も個々の資格取得、高合格率の達成に向けた努力や意欲が見られる。そのようななかで資格取得に関する目標は常に100%合格を目指して改善・努力を行っている。	3	整備士試験合格率 100%を達成するため日々の授業内容及びその効果の確認が必要であり、	一級整備士は難関な試験ではあるが、全員が合格できるよう対策を講じて欲しい。
4-22	退学率の低減に関する目標を達成したか	退学率の低減に関する目標は数値化され、またその低減を図るべき明確な方針が年度当初に掲げられ、15人以内という目標を達成した。	4.5	退学率の目標を継続して達成できるシステムを確立したい。	新入生に対して、車に興味を持たせるような指導をお願いしたい。
4-23	卒業生・在校生は社会で活躍し、評価を得ているか	卒業生、在學生は、社会の中でしっかりと活躍の場を見つけている。メカニックという非常に限られた職種であるので、その活躍ぶりを特筆することはなかなか難しいが一定以上の評価を得ているものとする。	4.5	悪い評価をいただいた時には教育内容や指導内容に反映させ、速やかに対処したい。	女子の卒業生についてよい評価があると聞いているので、今後も良い評価が得られるような教育活動を行っていただきたい。

5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

就職、退学率については目標を達成しているが、資格取得に関しては一級整備士の合格率が目標を達成できなかったため、全国でもトップレベルの合格率を達成できるよう早めの対策を講じたい。

基準 5 学生支援

評価項目		具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
5-24	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	本校では無料職業紹介所を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し、各地の職業安定所と綿密な連携を保ちながら多数の求人獲得に努力している。その結果、集められた資料は就職を希望する本校学生ならば誰もが自由に閲覧でき、就職活動の指針として参考にされる。	4.3	就職指導は主として担任が行っているが、担任によって指導内容に差が生じないよう職員間の連絡を密にしたい。	特になし
5-25	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	学生の相談に対応するための体制は整っている。 個人の持つ悩みや問題を解決するため指導や助言を行い、充実した学生生活を送ることができるよう相談を進めている。	3.5	担任のカウンセリング技術を向上させるよう研修参加を推進したい。	特になし
5-26	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しており専門学校評価基準を十分に満たしている。	4	近年の授業料納付困難者が増加している点を踏まえて、この制度をよりさらに充実させることを検討したい。	学校同窓会の奨学金制度を設けており、経済的な支援も実施しているといえる。
5-27	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	常勤の看護師による対応により学生の健康管理は適切に実施されている。	4.3	常勤していない学校医との連絡・連携を高めたい。	特になし
5-28	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	支援体制は整っているが十分であるかどうかは予算配分も含め判断しかねる。また概ね有効に機能しているが改善の余地はある。	3	活動状況の把握について、活動報告書を提出させることも検討したい。	特になし
5-29	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	遠隔地出身者のためのサポート体制を有効に機能させ、学生が新しい環境に早く馴染めるような配慮がなされている。	5	平成23年度より下宿生に対して毎月補助金を支援する。	H23年度より、一人暮らしの学生に支援するなど、学校としての対応はできている。

5-30	保護者と適切に連携しているか	クラス担任からの家庭連絡や保護者からの学校への問い合わせ等で、学校と保護者のコミュニケーションが常に図られ、学生の状況把握に関しての情報を共有している。	5	十分な連携が図られており、特に課題を感じない。	特になし
5-31	卒業生への支援体制はあるか	同窓会を中心とした積極的な支援活動を行う。また、卒業後の状況確認も定期的実施し、フォローアップに努めている。	3	同窓会の活動を活発にするため、会報の発行も検討したい。	離職者に対する就職斡旋も実施しており支援体制が有効に機能しているといえる。

5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

平成 23 年度より一人暮らし補助を実施するなど経済的な側面で支援を実施しているが、現在の社会情勢から今後も増加が見込まれる。学校経営を圧迫しない範囲内でできる限りのサポートを行っていきたい。

学生に対する進路指導におけるカウンセリング技術の向上など、教職員の資質向上にも努めたい。

基準 6 教育環境

評価項目		具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
6-32	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用していると判断する。施設・設備のメンテナンスについても専門業者に業務委託するとともに職員で可能なところは夏季休暇等を利用して補修をしメンテナンス体制も有効に機能している。	3.7	教育環境の整備を中長期的な視点で計画的に進めていく。	教材、機器等の教育環境の整備はしっかり対応できていると判断できる。
6-33	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	一級課程のインターンシップは第一種養成施設指定基準として明確に定められているため内定先の企業に説明をし、受入れてもらっている。最初は戸惑いもあったが実績を積んでいくうちに企業側の教育体制も確立してきている。	3.5	一級課程以外については企業任せということもあり、実施内容に差が生じているため、依頼する実施項目を提示できるようにしたい。	特になし
6-34	防災に対する体制は整備されているか	防災に対する体制は整備されている。また防災訓練も年2回実施し、意識の向上に努めている。	3.4	安全に十分という事はないので、定期的な見直しをより綿密に行い、学校の教育環境全般について安全防災教育を一層押し進めたい	特になし

5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

施設・設備においては中期経営計画に沿って計画的に整備を進めており、今後も計画的に推進していきたい。インターンシップ及び海外研修旅行など学外における活動も毎年実施しており、学生の人間的な成長に寄与していることから継続して実施していきたい。

基準 7 学生の募集と受け入れ

評価項目		具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
7-35	学生募集活動は、適正に行われているか	分野希望者、自動車整備系学校進学希望者、本校入学志願者を含めた学生募集活動はすべて広報課を中心に専属職員で行われ組織化されている。 また、学生募集活動及び広報活動においても年度当初に広報課活動方針を打ち出し、その計画の基に予算化され、適正に運営されている。	3.7	現状分析を適切に行い、志願者や保護者が安心できるような対応をしていきたい。	現役以外（大学卒、社会人経験者、留学生）の在校生の体験談を広報活動に取り入れ、同じ環境の反応者の共感を得られるような PR 活動も必要と考える。入学学生像を明確に把握、分析し、広報活動を通じて積極的なアプローチも必要である。
7-36	就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍の教育成果は、学生募集に貢献したか	資格取得状況や就職状況は志願者が専門学校を選択する上で、大変重要な判断材料になる。静岡県を中心とした学生募集活動において数値化した実績公表で教育活動の信頼性を高めるとともに、志願者や各高等学校への職員による説明やホームページ上での公開で大きく貢献している。	3.5	就職状況や資格取得状況において高い数値を維持する必要があるので、教育の質の向上に努めたい。	女子学生の就職先での活躍により良い効果が期待できるのではないかと思うので、そのような事実を PR し、女子学生の募集にも力をいれたらどうか。
7-37	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	各上級教育機関の入学選考方法が複雑化する中で、自動車整備士養成校としてのスタンスは変えず、その分野に必要な基礎計算能力と、推薦選考に関しては欠席基準を明確に設けて、厳選し選考している。また応募条件も学生募集要項の中で明確に示し、入学希望者が混乱しないよう質問や問い合わせ対応体制を整えている。	5	特に課題を感じていない。	特になし

7-38	学納金は妥当なものとなっているか	教育内容や他校の状況等を勘案して学納金額の見直しを行っている	5	他校の状況調査を定期的なものとし、適切な学納金額としたい。	特になし
------	------------------	--------------------------------	---	-------------------------------	------

5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

学生募集活動については、学校評価委員会から入学生像を適切に把握することが必要であるとアドバイスをいただいたので、現在の在籍学生の入学に至るまでの環境を分析し、効果的な学生募集を実施していきたい。

基準 8 財務

評価項目		具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
8-39	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	本校の直近3カ年の財務状況は、学校法人決算書からも財務基盤は良好と判断できる。	3.5	教育研究経費が高止まりしており。固定費の削減もしくは流動化を推進したい。	自己評価は低いですが毎年安定した経営基盤であると判断できる。
8-40	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3カ年毎の中期経営計画に基づき年度の事業計画が作成されている。予算は事業計画による業務目標を達成させるべく適正に決められ、その執行は有効性と妥当性を考慮して厳正に行われている。	4.5	事業計画の変更による補正予算が減少するよう努めたい。	特になし
8-41	財務について会計監査が適正におこなわれているか	公認会計士により毎年「当年度事務処理状況調査及び財務諸表各項目」について適正に監査が行われている。	5	特に課題を感じていない。	特になし
8-42	財務情報公開の体制整備はできているか	私立学校法に基づき制定された「情報公開に関する内規」により財務情報公開の体制は整えられている。	4.5	H23.2 に内規も改訂されており特に課題を感じていない。	特になし

5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

毎年ほぼ定員を確保しており経営基盤は安定して推移している。今後も教育内容や教材・機器の充実を図り、在籍数を安定的に確保できるよう努力したい。

基準 9 法令等の遵守

評価項目		具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
9-43	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令、設置基準や監督官庁の許認可、届出等定められていることが適正に遵守されている。現状は問題ないものの、担当者の交代や全職員の共通認識という観点からは啓蒙活動の実施も考慮したい。	3	法令、設置基準を遵守した運営をしており特に課題を感じない。	特になし
9-44	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	平成 17 年 4 月 1 日に「専門学校 静岡工科自動車大学校個人情報保護規」、「プライバシーポリシー」を制定し、同時に「情報機器及び業務情報の取扱基準」並びに「個人情報に関わる業務処理要領」を制定し全教職員に周知の後、実行に移した。また個人情報管理責任者、個人情報取扱管理者を指定し責任体制を明確化している。	3.5	内部監査を実施しており、適切な管理がなされているが、定期的に教職員に啓発活動を実施していきたい。	内部監査を実施するなど、学校における対応は問題ないと思う。

5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

学校の設置基準や教育時間などについては、監督官庁の指示・指導に従い問題なく運営できている。

個人情報保護についても個人情報保護規定を改訂し、内部監査を実施していることから定期的に見直しを行い適切に運用されていると考える。

基準 10 自己点検・自己評価、第三者評価

評価項目		具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
10-45	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価を定期的を実施し、問題点の改善にも努力している。	4	職員により評価の受け止め方に差があるので、具体的な行動に結びつける仕組みを考えたい。また、学生評価の精度を高めることも必要と考える。	自己点検評価制度も改善をして現在の内容となっている。また学校評価委員会も開催し、順調に改善できている。
10-46	自己点検・自己評価結果の公開はしているか	HP上で公開している。年々成長しているという成果を感じつつ、まだまだ努力不測であるが徐々に定着しつつあるので次年度にはより精度の高い自己評価を期待している。	4.3	より能動的な活動に結び付けていきたい。	HP上で公開しており、問題ない。
10-47	第三者機関による学校評価を受ける予定・方針は確立されているか	今後実施される第三者機関による学校評価を受ける予定である。現時点では精度の高い自己点検・自己評価報告書が作成できるよう内容の充実を図るとともに学校全体の資質向上に努めたい。	3.7	学校関係者評価についてはアンケート形式で実施していたので、より能動的な活動となるよう今回報告書の内容を改善した。	特になし

5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

毎年自己点検評価を実施しているが、学校運営や教育活動においても改善がなされてきているので、今後も継続してより良い学校づくりを推進していきたい。